

N700系のディスクボルトにも異常が! 会社は真の原因を究明せよ!

4月7日未明、東京仕業検査車両所において、新幹線N700系車両のディスクボルトの探傷作業を行っていた協力会社社員がディスクボルトの異常波形を発見しました。

今回は幸いディスクボルトの折損に至らず、その前兆ともいえる異常波形の段階で発見できましたが、ディスクボルトはこれまでも数多く折損しており、会社は幾度となく改良を行っています。さらに今回はN700系という最新の車両でディスクボルトの異常が発生しているのです。これは真の原因が究明できていないことの証左です。270キロで走行する車両からディスクボルトが飛散すれば死傷事故にもつながります。

私たちは、未だに続くディスクボルトの問題について、一刻も早い原因究明と対策の確立を求めて、会社に対して申し入れを行いました。

「申」第36号

N700系(Z7編成)ディスクボルトの異常による台車交換についての申し入れ(要旨)

1. ディスクボルトの異常波形が発見された経過と異常が生じた原因を明らかにすること。
2. これまでのディスクボルト折損、異常波形、台車交換の実績を明らかにすること。
3. 協力会社が行っている台車調査は重要な検査のため直営社員による調査とすること。
4. 「中央締結ブレーキディスク」の導入目的、経過、またディスクボルト折損対策となるのかを明らかにすること。
5. ディスクボルト折損の原因、防止対策を明らかにし、対策とする」新技術は組合と現場社員に明らかにすること。
6. ブレーキディスク亀裂、ディスクボルトの折損の原因解明、対策が確立されるまでは台検周期を短縮すること。